



記入日	2019年 月 日 (2019年度のチャレンジプラン)	
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校	
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	22 (地域との連携①)	
タイトル	生徒発信★ペットの命のためにできることを探そう！地域で活動しよう！(「ペットと防災」についての地域活動)	
実践担当者のお名前	京 (ボランティアクラブ顧問)	
実践にかかった金額	ほぼ0円 (学校負担として)	
実践の準備にかかった時間	数時間	
実践活動を実施した日時	①2019年7月26日10時00分～12時00分 ②2019年11月3日10時00分～15時00分	
実践の所要時間	①2時間 ②5時間	
実践の運営側で動いた人の人数	①6人 (保健所職員・教員) ②10人 (保健所職員など・生徒ボランティア・教員)	
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生・地域住民	
防災教育の対象者の人数	①2人 (生徒) ②はイベント全体の来場者数が14,000人 (公表値)	
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区	
実践を行った具体的な場所	①世田谷保健所 ②砧公園ねむの木広場	
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	ペットと防災に関する資料	

達成目標	本プランは、昨年度、社会(公民)の授業の一環で、世田谷区の災害対策課職員から区の災害対策について話を聞いた生徒2名が、「ペットのための防災について自分たちなりに調べて、地域住民に呼びかけをしたい」と申し出てきたことがきっかけで始まった。生徒が自ら見つけた課題に対して、どのような解決策があるか考え、地域で行動を起こすことを目指し、教員はそれをサポートしたものである。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに



実践内容・方法

(1) 事前打ち合わせ@世田谷保健所 (7/18)

- ・生徒のヒアリング調査の前に、保健所職員と教員で約 1 時間の打ち合わせを行った。
- ・打ち合わせで生徒が考えた質問項目をお伝えして、7/26 当日は、質問に合わせた資料を準備していただくことになった。
- ・教員からは、区の取り組みに加えて、地域の課題や生徒に「お願いしたいことの提案」も含めてくださるようお願いした。



(2) 生徒による保健所へのヒアリング調査@保健所 (7/26)

当日は、4名の職員の方がご参加くださり、生徒の質問に丁寧にお答えくださった。事前に提出していた質問事項だけではなく、追加の質疑応答にもお答えくださった。

○生徒からの「事前の質問と取り組みたいこと」の一部

- ・保健所で行っている防災対策を知りたいです。
- ・災害が起きたときに考えられるトラブルはどんなものがありますか
- ・防災に限らず、保健所が抱えている課題を教えてください。
- ・過去の災害でペット・動物や飼い主に起きたことから学んで、東京で同じことが起こらないように活動したいです。
- ・ペットを飼っている人に、防災を呼びかけたいです。



《お話を伺った主な内容》

- ①保健所の仕事全般について
- ②ペットと防災について、世田谷区の取り組みや保健所が配布している資料について



- ③地域におけるペットと防災の課題とどのような備えが必要か
- ④生徒に期待していること

(3) 動物フェスティバルでのボランティア活動 (11/3)

- ・生徒 6 名が、ボランティアとして保健所のブースで活動した。保健所ブースでは、ペットのための備えについての展示と、防災クイズが行われ、生徒は呼び込みやクイズ対応、資料配布などを行った。
- ・ヒアリング調査に参加した生徒からは「保健所でもらった資料が詳しくて分かりやすかったので、イベントで配布する担当をしたい」という希望も出た。
- ・災害時の動物支援に取り組む団体のブースが複数あり、生徒は情報収集や交流ができた。



得られた成果

①当日の成果

- ・動物フェスティバルは天気にも恵まれ、多くのペットを連れた住民が来場した（イベント全体では 14,000 人が来場）。本校としては、初めて参加するイベントだったが、生徒自身も楽しみながら活動することができた。開催時間いっぱい、途切れることなく多くの人々がブースに立ち寄り、防災クイズや展示の見学をしてくださった。
- ・ヒアリング調査にご協力くださった職員の方や地域で動物のボランティア活動に取り組む方と一緒に、ブースを運営することで、「顔の見える関わり」を深めることができ、生徒は社会との繋がりを広げることができた。
- ・動物フェスティバルには、多くのブースが出ており、「ペットと防災」を軸に取り組む団体の展示も多くあった。生徒は他のブースを



見学することで、様々な情報や活動に触れて、知識を楽しく得ると共に、活動へのモチベーションを上げていた。教員も様々なブース展示を見ることで、12月に行われる防災フェスタのブース作りにも活かすことができた。

- ・台風19号の後ということもあり、「ペットと防災」への関心は高い一方で、「どこに避難すればよいのか」といった行政に頼った質問もあったので、自分のペットのために普段から自分で考えて備えておくことの重要性をお伝えした。

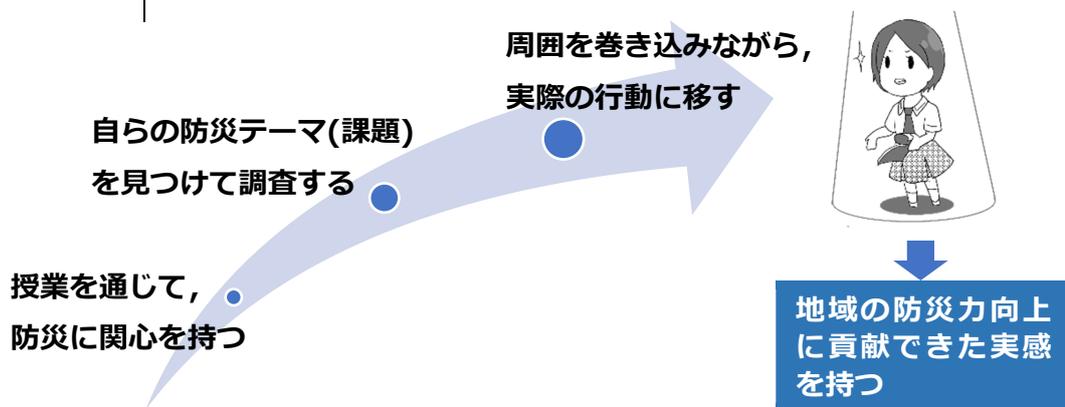
②活動全体を通じて

◎三人寄れば文殊の知恵！生徒から教員が学ぶ防災教育

- ・実践担当者は、防災に強い関心を持っているものの、ペットは飼っていないため、正直、「ペットと防災」にあまり着目していなかった。生徒の「思い」を受けて、今回の活動をマネージングする中で、教員の関心も高まり、改めて、「教員が生徒を教える防災教育」ではなく、「教員と生徒が知恵を寄せ合いながら、アイデアを出し合いながら取り組む防災教育」の有効性・素晴らしさを実感した。

◎防災活動のよいサイクルモデル

今回は、中学時代に「防災参画型授業」を受けた生徒が、高校生になって、自らの課題意識を基に行動し、実際の地域活動まで実現できたという、よいサイクルモデルになった。



どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり



<p>課題・苦勞・工夫</p> <p>工夫</p> <p>工夫</p> <p>課題</p> <p>工夫</p> <p>課題</p> <p>苦勞</p> <p>課題</p>	<p>◎学外との連携における防災「教育」に対するコンセンサスは重要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の活動の前に教員と協力してくださる職員の間で打ち合わせをしたことで、防災「教育」のコンセンサスができていたので、当日は、生徒たちがより効果的な学びが得られた。 ・学校側からは、「行政の対策」だけではなく、「地域の課題」についてのお話を希望した。 <p>⇒「地域にこういった課題がある」「解決方法を考えてみてほしい」と投げかけてもらうことにより、生徒は自助意識を高めるだけでなく、社会参画の意識と責任感を持つ。(逆に、「こんな対策をとっています」という情報提供だけであると、生徒は「行政が準備してくれる」と依存心を強める可能性がある。)</p> <p>⇒「地域と連携した防災教育」が推奨されているが、学外の協力者に防災「教育」の方針を説明して、一定のコンセンサスを得ておくことが必要である。教育の本質を説明して理解を得るために、事前打ち合わせが重要であると今年度のプランを通じ、改めて認識した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回のヒアリング調査については、中学生の段階で教員に相談が来ていたが、教員が忙しかったこともあってなかなか行動に移せなかった。生徒が自らの課題を見つけた時に、スムーズに支援できる仕組み作りを考えていく必要がある。 ・今回は、11月のイベントまでに生徒がオリジナルのチラシを作成するところまでは至らなかった。今後、活動を継続する中で、チラシや掲示物の作成までできると良い。 <p>◎イベントと台風 19 号で、住民意識の変革の必要性を改めて認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校でもペットを飼っている生徒は多い。イベントで行政に頼る意識の質問を受けたこと、台風 19 号の際に地域でペットに関して混乱があったことから、来年度の防災教育の重点項目の 1 つにしたい。
<p>★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について</p>	
<p>関係者の名前・団体名</p>	<p>世田谷保健所生活保健課</p>
<p>関係者の説明</p>	<p>動物担当の部署。</p>
<p>関係者の連絡先</p>	<p>TEL 03-5432-1111（代表）</p>



記入日	2019年1月5日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	23(地域との連携②)
タイトル	授業から社会参画しよう「生徒のアイデア×地域のカ」 で臨む地域防災イベント(地域防災イベントへの参加)
実践担当者のお名前	京(社会科)
実践にかかった金額	3万円未満(印刷代・携帯トイレ材料・展示用パネル)
実践の準備にかかった時間	1日
実践活動を実施した日時	2019年12月7日10時00分～13時00分
実践の所要時間	3時間
実践の運営側で動いた人の人数	8人:生徒(1)・公園職員(2)・自治会(2)・他校生徒(2)・ 教員(1)
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生・地域住民・防災関係者
防災教育の対象者の人数	約50人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	砧公園ねむのき広場
★実践に必要なだった特定の能力を 持った人・物品・ツール・知識等	携帯トイレづくりの材料, 災害時のトイレの展示, 展示物 とパネル

達成目標	【目的・目標】 学校近隣で開催される地域住民を対象とした防災イベントにおいて、 地域と協力して、生徒のアイデアを活用・具現化する。	
	【背景・経緯】 今回で3回目のイベントで、本校では昨年度から参加している。 【実践 番号 10】 で報告した通り、イベントの実施時期と本校の試験期間が重 なっていることから、昨年度は、教員のみでブースを出したところ、 効果的に啓発活動ができずに大いに反省した。以上のような昨年度の 「失敗」を今年度の教材とした。	
	どの力を身につけよ うとしましたか？	知識・技能 思考力・判断力・表現力 学びに向かう力・人間性



<p>実践内容・方法</p>	<p>(1) 準備・打ち合わせ</p> <p>第 1 回打ち合わせ (10/8) 16:00～17:30</p> <p>防災フェスタの各ブースを回るときに使用する、スタンプラリー用のカードのデザインについて相談した。</p> <p>★スタンプラリーの第 1 ターゲット＝ファミリー層（たまたま公園に遊びに来た幼児～小学校低学年とその保護者）</p> <p>▼生徒のアイディア</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① スタンプラリーカードは、敢えて防災色をあまり強く出さずに、季節に合わせてクリスマスカードをイメージしたデザインにする。小さな子どもがスタンプを集めたいくなるようなデザインにする。</p> <p>② スタンプラリー用カードには情報を詰め込まずに、別に防災啓発用のチラシを作成して、スタンプラリー用カードと一緒に渡して保護者に読んでもらう。チラシには、地域で防災に取り組む人たちから、前向きに備えに取り組んでもらえるようなメッセージや情報を集めて掲載する。⇒チラシ作成にあたっては、防災について学ぶ学生や、東日本大震災を経験した方などからメッセージを集めた。</p> </div> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>◀打ち合わせの様子</p> <p>スタンプラリーカードとチラシ作成に協力した生徒は、公園職員に対して、新しいアイディアを出し、しっかりと意見を述べていた。</p> </div> </div> <p>第 2 回打ち合わせ (11/7) 15:00～17:30</p> <p>① 本校の担当するブースの打ち合わせを行った。「どっきり一言カード」【実践番号 24】のメッセージ案をお渡しした。</p> <p>② 生徒からスタンプラリー用カードのデザインを提案した。</p> <p>※この他、メールでの打ち合わせを複数回、行った。</p> <p>携帯トイレ作成 (11/9) 【実践番号 34】</p> <p>中 1 が作成した携帯トイレを見本・配布用として使用する。</p>
----------------	--



砧公園 防災フェスタ 2019

おうちで話しあおう!

あるとホッとするもの

今日、ライフラインがすべて止まったら、何日、生活できますか?

長い行列並ばって自分たちを構はりますか?

普段食べているもので、興味があるものは?

自由にすてがあるもので、家族みんなで楽しむものは?

今日、準備できそうなもの

お風呂にしばらく入れないかも! こんど風呂が浴びます?

お部屋で考えてみよう!

お部屋中に地震が起きたら一歩も動かし、構えよう!

災害を上まぬことはできない、私たちにできるのは「備える」ということ。

2019年12月7日(土) 10:00~13:00

主催:公益財団法人東京都公園協会砧公園サービスセンター
チラシ作成:目黒星美学園中学高等学校

防災啓発用 チラシ

私はこれを読んでいま! 災害時にも役立つ身近なグッズ

枕カバー

自分やペットの顔がいびきついていて寝られない

プロテイン

非常食として災害が及ぶ、水だけで補給できます。サブメントもおすすめです!

水・食料・トイレ!

この3つは、しっかり備えてください!!

311のときに、本当に本当に大事でした!!

モバイルバッテリー

災害時、情報はとても重要です。多くの人はスマートフォンで連絡の取れるように、常に充電やモバイルバッテリーなどの準備を怠りません。大切な災害の際には、連絡がとれないと大変なことになるので、モバイルバッテリーも準備を怠りません。ネットの情報は防災を考えるととても大切な情報になります。今持っているものが、災害時は役に立つかもしれません。

Q. 備えについて、アドバイスをお願いします。

311のときは、ライフラインがすべて止まりましたが自宅に十分な備えがあったので、家族は自宅である程度、不自由なく生活できました。自分で備えておくことの大切さを、身を持って経験しました。災害が発生して、自宅以外で生活することになった場合も必要なものを準備しておくことが、自分自身の命につながります。どこかに住まう、避難から一人一人が自分で備えておくことが大切です。

そして、毎年の大震災は「いつか来る」ことです。「大きな地震がいつ来てもおかしくないといわれています」=「このころ備え」をしておくことで、いざというときの行動が変わります。(宮城県の花巻防災士)

防災啓発用 チラシ

スタンプラリーカード

なかのイラストではくまちゃん、あわてているよ。

もしも、地震がくるまえに、どうすれば、よかったかな? かんがえてみよう。

おうちでも、あふないばしょがないか、さがしてみよう!

主 催:公益財団法人東京都公園協会 砧公園サービスセンター
デザイン:目黒星美学園中学高等学校 主催

2019年12月7日(土)10:00-13:00

ぼうさいスタンプラリーのルール

かくるエリアをまわって、スタンプをあつめよう!

かくるエリアをまわって、スタンプをあつめよう!

体験するとスタンプが1つもSえるよ。

こ ぼうさいこうせんがせ 子ども防災公園博士をめぐろう!

スタンプがあつまったら本部(ほんふ)にきてお!

いしやう スタンプを3つ以上あつめるとプレゼントがもSえるよ!

おたのしみプレゼント☆

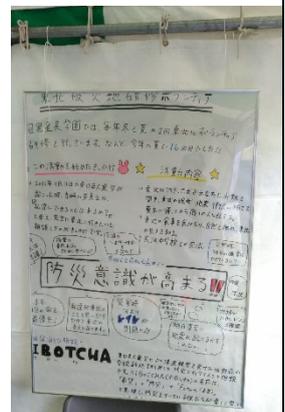
(2) 防災フェスタ当日

イベントに参加する前提として、本校生徒が防災フェスタ当日は、テスト期間で参加できなかったため、地域の皆さん(自治会と他校の中学生ボランティア)の協力を得て、ブース展示・運営を行った。

▶ 地域のご協力で実現した本校のブース



▶ 被災地ボランティア研修に参加した生徒が作成した壁新聞の展示





◀携帯トイレの吸水実験コーナー

法人格砧町自治会の方が様々なタイプの携帯トイレと尿に見立てた色水を使って、来場者に参加してもらった。来場者は、凝固剤が水を吸う様子を非常に興味深そうに試していた。平常時に使い方を確認しておくことは、抵抗感を無くすためにも有効である。



◀携帯トイレづくり

中学生ボランティアがすぐに指導方法をマスターして、動き出してくれた。明るく分かりやすく説明してくれたため、来場者も丁寧に作業を行っていた。来場者が作業しやすいように自分たちで考えて、材料を予め設置する工夫も素晴らしかった。

12/6の教員研修のために、宮城県からお招きした先生が、防災フェスタにもご参加くださった。設営段階から見学して、今後に向けてのアドバイスや地域住民に体験談をお話くださった。中学生にも、災害時に中学生の力は大きな助けとなるというお話もしてくださった。

得られた成果

- ・生徒のアイデアが実際の形になり、達成感があった。イベントに直接は参加できなくても、このような貢献の方法があることを知り、新たな社会参画の経験になった。
- ・中学生ボランティアは、防災の活動に参加するのは初めて
- ・雨天で人出は少なかったが、30名ほどに携帯トイレづくり体験にご参加いただいた。中1が作成した見本も10個ほど配布できた。
- ・自治会の皆さんの協力があって、非常に心強かった。携帯トイレの吸水実験の道具や展示物も用意してくださり、充実したブースになった。三人寄れば文殊の知恵と言うが、他団体との協力・連携してアイデアを出し合うとより良い活動が生まれると改めて実感した。

どのくらい身につきましたか？

知識・技能	少し
思考力・判断力・表現力	かなり
学びに向かう力・人間性	かなり



<p>課題・苦労・工夫</p> <p>工夫</p> <p>工夫</p> <p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベント主催者に、中学生には、防災イベントに一般参加者としての参加を呼び掛けるだけではなく、「ボランティア」として募集した方が、効果があることを学校視点から提案した。（本校の生徒の場合も、役割のあるボランティアの方が、集まりやすい傾向にある。） ・ 防災イベントに参加するときに、他校の生徒に当日、飛び入りで手伝ってもらった場合がある。その祭、活動の説明の際に、『魔法の一言』を付け加えると、より責任感を持って取り組んでくれる。 <p>教員「皆さんは、首都直下地震が発生したら、何人の人を救えると思いますか？」</p> <p>生徒「1人くらい…?」「助けられるかな…?」</p> <p>教員「これまで大きな地震が起きるとトイレを我慢するために、食事や水分を控えて体調を崩したり、命を落とす人もいました。だから今日、皆さんが、地域の方たちに災害時のトイレ問題について説明することが、多くの人の命を救うことに繋がるかもしれません。だから、自分の言葉で考えて、伝えてみてください。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域との連携の場合、学校行事との兼ね合いで生徒の参加が叶わないことは、今後も出てくる。今回を好事例として、多様な参加方法を今後も模索していきたい。
<p>★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について</p>	
<p>関係者の名前・団体名</p>	<p>①法人格 砧町自治会 ②世田谷区砧まちづくりセンター ③（公財）東京都公園協会砧公園サービスセンター</p>
<p>関係者の説明</p>	<p>①学校近隣の自治会で、積極的に防災活動に取り組んでいる。防災の素晴らしいアイデアをいくつも実践しており、本校でも参考にさせていただいている。また、2016年に本校の生徒が行った防災ワークショップをきっかけに、災害時のトイレの啓発活動にも取り組み、研修会の企画や携帯トイレの地域への普及活動等を行っている。</p>
<p>関係者の連絡先</p>	<p>HP: http://www.houzinnkakukinuta.com/</p>
<p>★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ</p>	
<p>伝えたい相手</p>	<p>ご協力くださった皆様</p>
<p>伝えたい内容</p>	<p>本校だけでは実現できなかった企画でした。様々なアイデアを出し合い、力を合わせると大きな力が生まれると思いました。</p>



記入日	2019年1月5日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	24(地域との連携③)
タイトル	あなたはそれでも準備しませんか? —「どっきり一言カード」大作戦! (炊き出し訓練の列に並ぶ人の自助意識を高める工夫)
実践担当者のお名前	京(社会科)
実践にかかった金額	1000円未満(カード印刷)
実践の準備にかかった時間	数十分
実践活動を実施した日時	2019年11月22日作成→2019年12月7日配布
実践の所要時間	15分(1人あたりの作業時間)
実践の運営側で動いた人の人数	1人(カード作成に協力した生徒は23人)
防災教育の対象者の属性	中学生・地域住民・防災関係者
防災教育の対象者の人数	約100人(=カード配布枚数)
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	都立砧公園 ねむのき広場
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	「どっきり一言カード」

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災イベントでふるまわれる炊き出しカレーと共に、生徒の防災一言アドバイスを集めた「どっきり一言カード」を配布することで、地域住民の防災意識をちょっと高める。 ・炊き出し訓練に並んだ人が「災害が起きたら、同じようにここに並べばいいんだ」と勘違いすることを防ぎ、むしろ「今日の帰りに早速スーパーに寄って、必要なものを探してみよう」と思って行動してもらえることを目標とする。 <p>【背景・経緯】 ◆炊き出し訓練による「防災の誤謬」!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントにおいて「食べ物」は魅力的な出し物であり、防災イベントにおいても集客力を高める。しかし、以前、地域で行われた炊き出し訓練では、たまたま通りかかった人がどんどん列に並んでカレ
------	---



	<p>一だけを受け取る様子があった。「災害が起きたら、こうやって炊き出しを受けられる」という防災依存心を高めているように見えた。</p> <p>・1学期に実施した中3の防災化授業【実践番号 10】で、生徒が地域住民の自助意識を高める防災イベントの企画を提案した。その中に、「炊き出しの食べ物と一緒に、メッセージカードを付ける」というアイデアがあり、本プランとして採用した。</p>	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
実践内容・方法	<p>(1) カード作成の流れ</p> <p>① 生徒による防災イベントのアイデアの提案 (1学期実施)</p> <p>↓</p> <p>② 一言カード案の作成 (授業時間数に余裕のあった1クラスが協力)</p> <p>※公民的分野の授業内での位置づけは、「行政権の拡大・行政改革」の単元において、防災の行政依存の問題に関連させて。</p>	
<p>授業 プリント</p>	<p>いつか来るその日のために…</p> <p>普段から自分で備える意識を広めよう！</p> <p>12月7日の砧公園での防災フェスタでは、1学期に皆さんが提案したアイデアが色々と採用されることになりました！</p> <p>その中の1つが、去年はただカレーを配っただけの炊き出し訓練で、食べ物と一緒に「一言カード」を配るというもの。</p> <p>読んだ人が、「炊き出しの列に並べばいいや、と思い込んでいたけれど、そうではなく、自分や自分の大切な人のために自分で備えよう！」「今日の帰りに早速スーパーに行ってみようかな」と思うような「メッセージのアイデア」を提案してください。(いくつでも！) メッセージやデザインなどを提案してください。</p> <p>東京では電気・ガス・水道がストップするような地震が起きた時、どんなことが起きると思いますか？ 想像してみよう！</p>	



③ 砧公園の職員による投票

→得票数が多いフレーズをそれぞれの生徒に清書してもらった。

※生徒のメッセージは、割とストレートで遠慮のないものもあるので、配布して支障のないものを、イベントの主催者にも選んでもらった。防災活動において、言葉の選び方で誤解されるリスクは避けたい。



④ 「どっきり一言カード」の作成

生徒の手書きメッセージをスキャナーで取り込んで、カードを作成した。砧公園職員から、パソコンで打つよりも生徒の手書きの方が良いとアドバイスをいただいた。

(2) イベント当日

赤十字婦人部担当の炊き出しコーナーで、配布していただいた。





▼配布したカード

備えて食べて買って
ローリングストック

気軽に続けよう！
いつも食べているものや使っているものを多目に買って備える
日常備蓄 (ローリングストック)
がおすすめです。

備えよう。未来の自分のために。

「一人一人が防災の主役に！」を合言葉に、中学生が防災の授業で考えた一言コメントです。

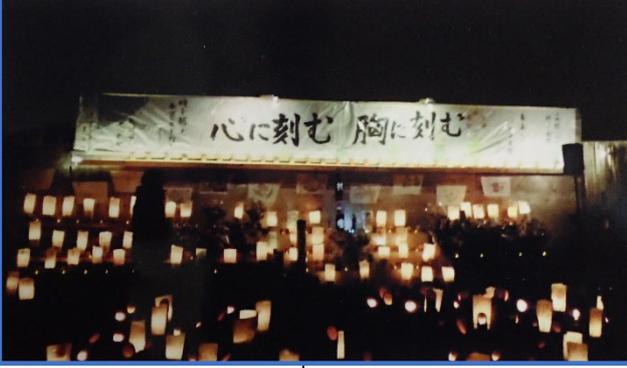
<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・短い作業時間にも関わらず、ミッションの内容を掴み、ユニークな一言がたくさん出てきた。 ・生徒のアイデアが実際の形になり、達成感があった。イベントに直接は参加できなくても、このような貢献の方法があることを知り、新たな社会参画の経験になった。 ・初めての試みだったが、面白い取り組みになったと自負している。 	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>少し</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>かなり</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>かなり</p>
<p>課題・苦勞・工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の手書きのメッセージをそのまま使ったので、親しみの持てるカードになったと思う。「子ども・若者には大人を動かす力がある」と感じているが、このような形でも子ども・若者ならではの良い影響を生むと思った。今後も、このような子どもたちの力を活かすアイデアを考えていきたい。 ・当日は、雨天のため、人出は少なかったが、今後も引き続き、機会を見つけて「どっきり一言カード」を作成・配布していきたい。 	



記入日	2019 年月日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	25 (地域との連携④)
タイトル	「私たちにできること」 忘れない思いをカタチに Vol.3 (書道部による 3.11 追悼イベントのための大型作品・竹 灯籠作り)
実践担当者のお名前	伊藤 (書道科主任)・須藤 (書道部顧問)
実践にかかった金額	3 万円未満 (材料・送料)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019 年 12 月上旬～2020 年 2 月下旬
実践の所要時間	36 時間
実践の運営側で動いた人の人数	3 人
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生
防災教育の対象者の人数	10 人 (書道部部員)
実践を行った都道府県と市区町村	①東京都世田谷区 ②宮城県亶理郡亶理町
実践を行った具体的な場所	①目黒星美学園中学高等学校 書道室 ②山元みんなのとしよかん敷地 (追悼イベント会場)
★実践に必要なだった特定の能力を 持った人・物品・ツール・知識等	大型作品：大型作品用書道用紙 (9.5M×2 本), 墨汁, イ ベントカラー/竹灯籠用イラスト：プラスチック障子紙, マジック, クレヨン

達成目標	<p>【目的・目標】 2020 年 3 月 11 日に宮城県の山元町で行われる追悼イベントの会場に 展示する大型の書道作品を作成する。書道部部員が言葉やデザインを 一から考えて、協力して完成させる。</p> <p>【背景・経緯】 被災地ボランティア研修で繋がりができた山元町の町民の方から、作 品の作成を依頼され、今回で 3 年目の取り組み。</p>	
どの力を身につけよ うとしましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに



<p>実践内容・方法</p>	<p>依頼 山元町の追悼イベントの実行委員から作品の依頼を受ける</p> <p>↓</p> <p>作成</p> <p>①書道部員で話し合い、作品の構図と言葉を考える</p> <p>★中心となる言葉：「光を灯す 心に灯す」</p> <p>②学年ごとのメッセージを考える</p> <p>学年ごとに懸命に言葉を選び、ふさわしい表現か先輩からアドバイスを受けながら推敲を重ねる。</p> <p>③作品を作成する（2 作品作成）</p>
	
	<p>④竹灯籠作り</p> <p>プラスチック障子紙を使用して、竹灯籠用のイラストも、同時並行で作成した。</p> <p>↓</p> <p>⑤校内報告（1/18）</p> <p>学校行事の中で、全校生徒の前で作品と活動について紹介する。全校生徒が被災地に心に向け、関心を持つ機会にもなっている。</p>
	<p>↓</p> <p>⑥現地へ送る→2020年3月11日に追悼行事の会場に展示される</p> <p>◀参考：以前の様子 (2018年3月11日撮影)</p>



<p>得られた成果</p>	<p>チャレンジ！書道部ならではのスキルを活かして被災地に貢献する</p> <p>①生徒各自が真剣に取り組み，書いて表現し，追悼イベントに作品を通じて参加できる経験は，指導者としては，この上ない教育活動であると考えている。やり直しのきかない大型作品なので，失敗できない緊張感とプレッシャーも書道の学びとなる。</p> <p>②生徒がオリジナルのメッセージを考え，心を込めて作品を作成した。書道部ならではの活動で貢献することで，自らのスキルを活かして社会に貢献する意識を持つことができた（＝プロボノの体験）。</p> <p>③被災地ボランティア研修に参加経験のある生徒から，参加経験のない生徒に経験を伝える機会になっている。書道部は，希望者制の「被災地ボランティア研修」への参加率が毎回，高い。部員が被災地研修に参加していたことから，この作品作りの依頼を受け，さらに作品作りを通じて下級生が関心を持ち，参加に繋がる良いサイクルが生まれている。活動を継続するのは簡単なことではないが，「思い」が先輩から後輩に受け継がれるのが，本校の防災教育・被災地支援活動の良い点であると自負している。</p>	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>大いに</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>大いに</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p>
<p>課題・苦勞・工夫</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="background-color: #808080; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">工夫</div> <div style="background-color: #808080; color: white; padding: 5px;">課題</div> </div>	<p>本プランは，「時間が経ってから，現地のニーズに合わせて活動する」という方法があるという「防災『支援』教育」にも繋がる。今回の事例を授業でも，紹介していきたい。本校では，「支援する側」の防災教育の必要性にも着目している。災害発生直後に，闇雲に子どもたちの作品やメッセージを送ることは，「支援物資のミスマッチ」に繋がる可能性があり，課題と捉えている。</p>	



記入日	2019 年 月 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	26 (地域との連携⑤)
タイトル	「どうせ助からない」を減らすために (地域交流会での生徒によるミニ防災講座)
実践担当者のお名前	京 (ボランティアクラブ顧問)
実践にかかった金額	ほぼ 0 円
実践の準備にかかった時間	数十分
実践活動を実施した日時	①2019 年 7 月 16 日 14 時 00 分～16 時 00 分 ②2019 年 12 月 17 日 14 時 00～16 時 00 分 ③2020 年 2 月 17 日 14 時 00～16 時 00 分 (予定)
実践の所要時間	5～10 分 (2 時間のイベントの一環として)
実践の運営側で動いた人の人数	指導した生徒数 ①4 人 ②1 人
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生・地域住民
防災教育の対象者の人数	①約 50 人 ②約 40 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	学校近隣の団地集会所
★実践に必要な特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	(知識) 東北福祉大学考案の「エコノミークラス症候群予防体操 (愛称: さんあい体操)」 https://www.tfu.ac.jp/gensai/image/economi-taisou.pdf

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害に対して「諦めの意識」を持つ住民に対して、生徒が明るく防災について、呼びかけることで、少しでも前向きに防災に取り組んでもらえることを目指す。 ・この経験を通じて、生徒自身がエコノミークラス症候群予防の知識と技能を身につけ、主体的に行動する態度を養う。 <p>【背景・経緯】</p> <p>①宮城県の私立学校教員から、東日本大震災を経験して、分かったこととして、「地域との連携が無ければ、災害は乗り越えられない」というアドバイスを受ける。</p>
------	---



	<p>⇒現状としては、公立に比べて、私立学校は地域との関係が薄くなりがちであるため、校内の防災対策を進めるのと同時に地域との連携も模索してきた。その実践の中で、「災害時の連携」を目指すのであれば、「普段からの繋がり」が必要であることに気づき、防災以外にも地域との交流の機会を増やしている。</p> <p>②地域住民と交流する中で、生徒から「防災の話題を出したら、『災害が起きたら、私は助からないから諦めている』『備えても災害が来たらどうしようもないから…』と言われた」という報告があった。</p> <p>⇒被害想定が大きい沿岸部に限らず、学校の近隣でも「住民の諦め」意識が課題であることが浮かび上がった。</p>	
<p>どの力を身につけようとしたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>かなり</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>かなり</p>
<p>実践内容・方法</p>	<p>定期的に本校の生徒が参加している地域住民との交流会の中で、生徒による「ミニ防災講座」の時間をとらせてもらっている。</p> <p>今年度の交流会では、エコノミークラス症候群を予防する「さんあい体操」を実践している。</p> <p>体操の前に、生徒がエコノミークラス症候群や備えることの大切さについて説明してから、実践している。</p>	
<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・温かい雰囲気の中で、参加者全員で楽しく明るく体操ができた。 ・初めて体験する生徒も多いが、「一緒に体験する」「自分たちが教える側になる」という経験を通じて、しっかりと身体を動かす様子が見られた。実践しながら、身につけることができた。 	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>かなり</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p>
<p>課題・苦労・工夫</p>	<p>・短い時間の取り組みなので、どの程度、住民の意識改革や行動変容につながっているかは分からないが、少なくとも明るい印象作りには貢献できていると思う。また、参加した生徒自身の意識向上と技能習得には確実につながっている。</p>	

課題